令和7年度 シラバス

| 教科 | 数学 | 学科・学年 | | 全等 | 学科 第 | 3学年 | 単位数 | 4単位 | | |
|------------------|--|-------|--------------------|---------|----------|--------------------|--------------------|----------|--|--|
| 教科 | | 教科 | 書 | 数 I 705 | 「高校数学 | Ⅱ」 (出) | (出版社名 実教出版) | | | |
| 科 目 | 数学Ⅱ | 副教 | 材 | | 「ステップ | ノート数学 | Ⅱ」 実教は | 出版 | | |
| | 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | | | | | | |
| | (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学 | | | | | | | | | |
| | 的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 | | | | | | | | | |
| 科目の目標 | (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学 | | | | | | | | | |
| | 的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 | | | | | | | | | |
| | (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、 | | | | | | | | | |
| | 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 知識・技術【知】 | | | 思想 | き・判断・碁 | 長現 【思】 | 主体的に | 主体的に学習に取り組む態度 【主】 | | | |
| | 数学Ⅱにおける基本的な概念や原理・法 | | | や式の性質に着 | 音目し, 等式や | 字不 数学のよ | 数学のよさを認識し数学を活用しようと | | | |
| | 則を体系的に理解していると | 等式が成 | り立つことなる | どについて論理 | 性的 する態度 | する態度、粘り強く柔軟に考え数学的論 | | | | |
| | 象を数学化したり、数学的に | | る力,座標平面 | | | 拠に基づいて判断しようしている。 | | | | |
| | り、数学的に表現・処理した | | 素間の関係に着 | | | また、問題解決の過程を振り返って考察 | | | | |
| | ができる。 | | 用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現し | | | | , | 手したりしようと | | |
| 趣旨 | | | , , | 形の性質を論理 | | | 00 | | | |
| , C I | | | | 関数関係に着目 | , | | | | | |
| | | | | てその特徴を数 | | _ | | | | |
| | | | , | の局所的な変化 | | - | | | | |
| | | | | に考察したり、 | | | | | | |
| | | | | 振り返って統合 | | _考 | | | | |
| | | | 祭する力 | を身につけるこ | ことかでさる。 | | | | | |

| 学習内容 学習活動・学習のねらい 知 思 主 評価規準 | 方法 FII |
|---|---|
| - + ++++ 1 | や用 |
| 1 章 横素数と方程式 1 節 式の計算 1 整式の乗法 2 因数分解 3 二項定理 4 分数式 2 節 複素数と 2 次方程式 1 複素数 2 ② 次方程式 2 節 複素数と 2 次方程式 2 節 複素数と 2 次方程式 3 解と係数の関係 3 高 高次方程式 2 元 第次の職法 2 表 2 次方程式 3 解と係数の関係 3 高 高次方程式 1 整式の除法 2 剩余の定理と因数定理 3 高 流方程式 2 利余の応避と因数定理 1 整式の除法 2 利余の応避と因数定理 2 不等式の診話 2 和余の応患 4 第 太と証明 2 不等式の証明 2 不等式の証明 2 不等式の配明 2 下面上の点の座標と | 則え外でき、関いでる方線など解論を方るの計られた。連発課定問題期間題期間の問題を持ちるのでは、対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対 |

| | 2. 累乗根 3. 指数の拡張(2) 4. 指数関数のグラフ 4節 対数関数 1. 対数 2. 対数の性質 3. 対数関数のグラフ 4. 常用対数 [チャレンジ]底の変換公式 | ・指数を0や負の整数、分数に 拡張し、指数法則について考察 する。 ・指数関数のグラフについて学 び、その性質を考察する。 ・対数の意味を理解し、対数の 性質を用いた基本的な計算の仕 方を学ぶ。 ・対数関数のグラフについて学 び、その性質を考察する。 | 0 | | | ・指数法則を用いて数や式の計算ができる。 ・対数の意味とその基本的な性質を理解できる。 ・定義に基づき、対数の値を求めることができる。 ・対数関数の値の変化やグラフの特徴を理解できる。 ・関数を利用して、指数にxを含む方程式や対数を含む方程式を解くことができる。 ・微分係数の意味を理解し求めることができる。 ・導関数の意味を理解し求めることができる。 ・導関数を用いて、関数の値の増減や極大・極小を調べることができる。 | |
|-----|---|--|---|---|---|---|----------------------|
| 二学期 | 1. 平均変化率 2. 微分係数 3. 導関数 4. 接線 5. 関数の増加・減少 6. 関数の極大・極小 7. 関数の最大・最小 [チャレンジ] 関数の最大・ 最小の利用 | ・常用対数を用いて整数の桁数を調べる方法を学ぶ。 ・微分係数や導関数について理解し、関数の導関数を求めたり,曲線上の点における接線の方程式を求めたりする方法を学ぶ。 ・導関数を用いて、関数の値の変化を調べ、関数の増減や極大・極小を求めたり、3次関数 | | 0 | | ・対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察できる。 ・関数 xîn とその導関数の関係について考察できる。 ・放物線上の点における接線の方程式を求める際に、微分係数を利用することを考察できる。 ・3 次関数のグラフをかく際に、導関数を用いて考察できる。 | 発問評価 課題提出 定期考査 |
| | 2節 積分の考え 1. 不定積分 2. 定積分 | のグラフをかいたりする方法を 学ぶ。 ・微分の逆演算として不定積分 を考え、2次までの多項式関数 の不定積分を求められるように | | | 0 | ・指数が正の整数から有理数へ拡張していく過程に関心をもっている。 ・指数と対数の関係に関心をもっている。 ・関数の局所的な変化に着目することの良さがわかり、その変化を調べようとしている。 (授業態度・課題提出) ・不定積分の意味について理解し、不定積分を求めることができる。 ・定積分の意味を理解し、定積分を求めることができ | |
| | 4. いろいろな図形の面積 [チャレンジ] 直線や曲線で囲ま れた図形の面積 | する。 ・定積分について理解し、それをもとに直線や曲線で囲まれた図形の面積を求める方法を学ぶ。 | | 0 | | る。 ・関数の定数倍、和及び差の不定積分を求めることができる。 ・条件のついた不定積分を考察できる。 ・関数の定数倍、和及び差の定積分を求めることについて、学んだ知識を活用して考察することができる。 ・積分の考えを用いて、いろいろな図形の面積を求める方法について考察できる。 | 発問評価 |
| | | | | | 0 | ・微分と積分の関係に着目し,その関係に関心をもっている。 ・天秤を用いて面積を確認できることに関心をもち, 面積を調べようとしている。 | |